

沿道景観の貢献要素に関する考察

(美術教育講座デザイン研究室) 千代田 憲子

A Study on Elements which Contribute to Roadside Scape

Noriko CHIYODA

(平成 25 年 7 月 19 日受理)

1. 研究の目的と背景

前稿(注 1)に続き、地域において長い年月の蓄積を経て形成された景観である生活景〔生活の営みが色濃く滲みでた景観、地域風土や伝統に依拠した生活体験に基づいてヒューマナイズされたながめの総体〕(注 2)に着目して、地域が持つ歴史の文脈を重視した景観整備が進むための方法を検討する。

本稿では、松山市と近郊の街路で調査を実施し、沿道景観に大きな影響を与えている生活景をはじめとする景色を観察してキーワードを抽出する。キーワードを感性的表出としての言語表現(注 3)と捉えて集積したものを分類し、貢献要素を検討する。また、住民主体のまちづくりや沿道景観への理解促進などのワークショップの際に問題の共有をはかりやすくするために、視覚化へのアプローチを行う。

地域の特色に基づいた多様な生活景を取り込んだ活動や整備が進んでいる事例として前稿(注 1)の対象とした「山苞の道」(注 4)の一部と比較しながら、問題点や方向性を考察する。

2. 研究,調査の方法

2.1. 調査街路の選定

調査街路は、中核都市である松山市の市内と周辺で環境特性の異なる 5 街路を選定した。いずれも歩行空間としてまとまりのある街路区間である。

1) ロープウェイ通り: 中心市街地の観光エリアである松山城の登城口に位置しており街路整備も完了している。ほぼ直線で緩やかな高低差のある通称ロープウェイ通り約 400m

2) 道後: 市内観光エリアの核である道後温泉周辺の曲折と高低差のある道後温泉駅からホテル道後館までの約 500m

3) 萱町商店街: 城山の西エリアで昔ながらの雰囲気と活気が残る商店街約 300m

4) 三津浜: 伊予鉄三津浜駅から港に向う商店街でシャッターを閉めた店舗も散見する約 600m

5) 成留屋: 遍路道であり保存活用による街並形成を進行している愛媛県内子町成留屋地区の約 450m

なお、キーワードのヴァリエーションに関する比較対象として福岡県久留米市田主丸町の通称「山苞の道」の全長約 5 km からあらかじめ選択した 7 地点を加える。

2.2. 撮影調査の方法

50 ミリレンズを用いて断面方向の写真を 50m ごとに上りと下り交互に撮影する。歩道幅員のほぼ中央に立ち視高約 150cm で行う(注 5)。

なお、今後の可能性を検討するために、印象に残った箇所も加えて撮影する。

2.3. キーワードの抽出

ワークショップ形式を想定して 5 名のグループにより行う。まず各街路の撮影箇所の一覧データを作成し、担当者が観察して総合的に景観に貢献しているとした数カ所を調査地点として選定する。次にフォーマットに従いタイトルとコメントを記入し、加えて貢献要素と阻害要素に分けたキーワードを記入したカードを作成する。そのカードを掲示してグループで状況を共有しながらディスカッションを行い、キーワードを追加する。キーワードに用いる言葉は SD 法で一般的に使用される形容詞の対語も参考とする。

2.4. キーワードの分類

活発な言語活動は、調査地点への関心の高さが反映されたものとしてキーワードの数量に着目する。快適行動の種類と時間の長さを快適さの指標としたケースに準じた(注5)。なお、グループのディスカッションにより分類と用語を導く。

3. 研究の結果

3.1. 撮影調査の結果

2013年2月に松山市内と周辺地区で撮影調査を行い、街路ごとの一覧データを下記のようにまとめた(図1)。なお「山苞の道」は2011年と2012年11月に撮影したものを使用した。



図1 対象街路の一覧データの例

3.2. キーワードの抽出結果と分析

キーワード抽出カードは、図2のようなフォーマットとした。また、各街路の順序に沿った50mごとの撮影

のために、特徴的と思われる箇所が撮影地点から若干ずれたり、撮影の際の画面占有率によって印象が左右される場合も考慮して、撮影地点以外にも印象に残った箇所を撮影し、ABCの表記を用いてカードを同様に作成した。

それらを掲示して、グループ全員でディスカッションをしながらキーワードをカードの下部に追加したのちに、総合的に景観に貢献している地点のカードに赤い○をつけて、総合的に景観に貢献していない地点のカードに黒い○を複数選択可としてつけた。

- 1) ロープウェイ通り:貢献している地点 No.4, 6
:貢献していない地点 A
- 2) 道後:貢献している地点 No.11
:貢献していない地点 0
- 3) 萱町商店街:貢献している地点 No.2, A
:貢献していない地点 No.9, B
- 4) 三津浜:貢献している地点 No.1,4,20
- 5) 成留屋:貢献している地点 No.1,7,19, A
:貢献していない地点 0

松山市内と周辺地区の5街路で貢献している地点12カ所と貢献していない地点6カ所の計18カ所について、再度ディスカッションを行い、キーワードを抽出する対象地点として赤い○を複数票集めた8カ所を選定した。

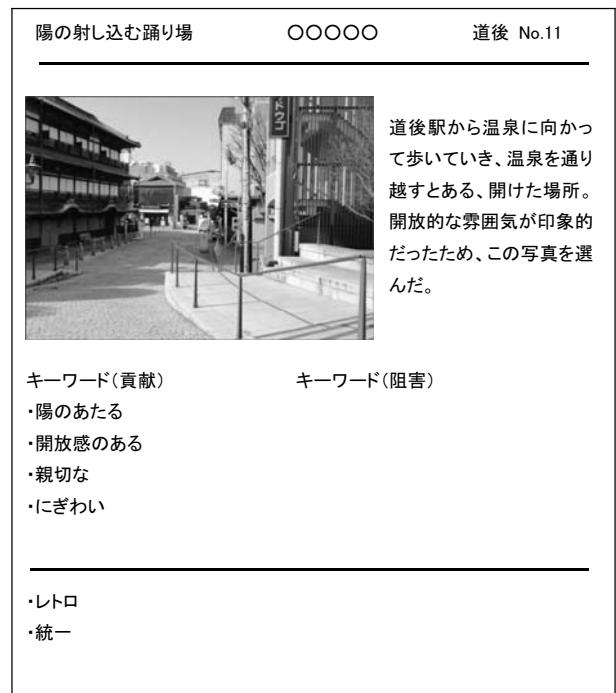


図2 キーワード抽出カードの例

選定されなかった箇所は特徴が少なく印象に残りにくい中途半端で曖昧な要素が多いと判断して対象から除外した。

言語化する際の微細なニュアンスも重視したが、既にある知識による差が生じる場面もあった。なお山苞の道では、あらかじめNo.4, 8とA～Eの計7カ所とした。

3.3. キーワードの分類結果と分析

松山市内と周辺地区と「山苞の道」のキーワードを貢献要素と阻害要素に分けて表1～4にまとめた。松山市内と周辺地区の貢献要素のキーワードの種類計39・票数計43、阻害要素のキーワードの種類計11・票数計13で、「山苞の道」の貢献要素のキーワードの種類計60・票数計74、阻害要素のキーワードの種類計22・票数計27であった。

「山苞の道」のキーワードが松山市内と周辺地区に比べて多いのは、作業の経験が2回目ということや、撮影者がグループ内に存在しない為にある種の遠慮を感じないという側面もあったと思われる。しかし、街路としての情報量の違いや刺激も大きく影響していると思われる。

抽出されたキーワードを分類するにあたって、包括する言葉をディスカッションにより検討した結果、下記の7種類となった。

- ①営み (生活感, イベントなど)
- ②自然 (植物, 山, 緑, 風, 空, 空気など)
- ③街並 (塀, 歴史, など)
- ④整備 (歩道, サインなど)
- ⑤雰囲気 (空, 空気など, ハードや実態に基づく印象)
- ⑥印象 (植物, 山など, よりソフトで曖昧な印象)
- ⑦開放感 (広さ, 狭さ, 日当りなど)

松山市内と周辺地区では、①営みが垣間みられるような状況は少なく、②自然の要素も少ない。③街並みには歴史が伺える。また、⑤雰囲気のキーワードが13と多く、観光地としての印象づくりの成果ともいえる。一方、商店街の万国旗から受ける印象が分かれたことも特徴である。

「山苞の道」は、秋のイベント時の撮影であったこともあり、①営みが多い。また、②自然の豊かさがキーワード数として明確に出ており、阻害要素には皆無である。④整備は好印象に繋がっており、⑥印象に並んだキーワードが特徴を表しており興味深い。

表1 貢献要素のキーワードと分類(松山市内と周辺地区)

	営み	自然	街並み	整備	雰囲気	印象	開放感	キーワード	票数
1	●							野良猫	1
2	●							観光地	1
3	●							芸術	1
4	●							モニュメント	1
5	●							木造	1
6		●						山	1
7		●						空	1
8			●					路地裏	1
9			●					休憩所	1
10			●					庶民的	1
11			●					石垣	1
12			●					散歩	1
13			●					昔ながら	1
14			●					開かれている入口	1
15				●				親切的な	1
16				●				統一	1
17					●			にぎわい	2
18					●			レトロ	2
19					●			清潔感	1
20					●			安心感	1
21					●			やや都会的な	1
22					●			親しみやすい	1
23					●			あたたかさ	1
24					●			懐かしさ	1
25					●			やわらかい	1
26					●			冒険	1
27					●			明るい	1
28					●			のどか	1
29					●			生活感	1
30						●		調和	2
31						●		新	1
32						●		均衡	1
33						●		目を引く	1
34						●		素朴	1
35							●	広い	2
36							●	開放感のある	1
37							●	日当たりが良い	1
38							●	見晴らしが良い	1
39							●	日の照る	1
種類計	5	2	7	2	13	5	5		39
票数計	5	2	7	2	15	6	6		43

表2 阻害要素のキーワードと分類(松山市内と周辺地区)

	営み	自然	街並み	整備	雰囲気	印象	開放感	キーワード	票数
1	●							過疎	2
2	●							雑巾バケツ	1
3		●						むき出しの斜面	1
4			●					ある程度都会の田舎	1
5			●					万国旗により引き立つ寂しさ	1
6					●			冷たい感じ	1
7					●			ごちゃごちゃ	1
8							●	狭い	2
9							●	日陰	1
10							●	陰	1
11							●	暗い	1
種類計	2	1	2	0	2	0	4		11
票数計	3	1	2	0	2	0	5		13

表3 貢献要素のキーワードと分類(山苞の道)

	営 み	自 然	街 並 み	整 備	雰 囲 気	印 象	開 放 感	キ ー ワ ー ド	票 数
1	●							実り	2
2	●							イベント	1
3	●							道の駅	1
4	●							憩いの場	1
5	●							家族	1
6	●							山里	1
7	●							栽培	1
8	●							手作り	1
9	●							木製	1
10		●						緑	4
11		●						自然	3
12		●						茂り	1
13		●						色づいた木々	1
14		●						茂る樹木	1
15		●						スカッとする空	1
16		●						紅葉	1
17		●						広い空	1
18		●						竹林	1
19		●						山並み	1
20		●						山	1
21		●						大きな雲	1
22			●					田舎道	1
23			●					高台	1
24			●					遠くの町	1
25			●					青い屋根	1
26				●				石垣	2
27				●				緩やかな曲り道	2
28				●				夜もライトで見える配慮	1
29				●				安全	1
30				●				木の柵	1
31				●				整備された柵	1
32				●				歩道	1
33				●				歩きやすい	1
34				●				まっすぐな道	1
35				●				まっすぐな電線	1
36					●			のどか	2
37					●			ぼかぼか	1
38					●			にぎわい	1
39					●			ユニーク	1
40					●			センス	1
41					●			生活感	1
42					●			アクセント	1
43						●		鮮やか	2
44						●		田舎	2
45						●		連続性	2
46						●		素朴	1
47						●		季節を感じさせる	1
48						●		統一	1
49						●		調和	1
50						●		開放的	1
51						●		グラデーション	1
52						●		安心感	1
53						●		有機的	1
54							●	日当たりのよい	2
55							●	見通しがいい	2
56							●	広い	1
57							●	広大	1
58							●	風通りがよい	1
59							●	見晴らしがよい	1
60							●	奥行き	1
種類計	9	12	4	10	7	11	7		60
票数計	10	17	4	12	8	14	9		74

表4 阻害要素のキーワードと分類(山苞の道)

	営 み	自 然	街 並 み	整 備	雰 囲 気	印 象	開 放 感	キ ー ワ ー ド	票 数
1	●							人気がない	1
2			●					電線	4
3			●					工事の看板	1
4			●					看板	1
5			●					延々と続く道	1
6				●				夜は危険	1
7				●				緩りが違う	1
8				●				不揃いなテント	1
9				●				わかりにくい	1
10					●			寂しい	1
11					●			寂しげ	1
12					●			スカスカ	1
13					●			刺々しい	1
14						●		殺風景	2
15						●		単調	1
16						●		質素	1
17						●		地味	1
18						●		カラフル	1
19						●		そぞろ	1
20							●	暗い	2
21						●		見通しが悪い	1
22						●		見にくい	1
種類計	1	0	4	4	4	6	3		22
票数計	1	0	7	4	4	7	4		27

3.4.貢献要素のまとめ

貢献要素のまとめとしてレーダーチャートによる視覚化を試みた(図3, 4)。抽出されたキーワードの数は、関心の高さが活発な言語活動に反映していると判断して貢献要素のキーワード数をプラス1~4とし、阻害要素のキーワード数をマイナス1~4として配置した。レーダーチャートの外側がプラス4である。

分類項目ごとに貢献要素が多い(2以上)地点は、以下のとおりである。

① 営みの貢献要素が多い

ロープウェイ通り 4/成留屋 1/山苞の道 B・D・E

② 自然の貢献要素が多い

成留屋 1/山苞の道 8・A・C・D・E

③ 街並みの貢献要素が多い

萱町商店街 2/成留屋 1・A/山苞の道 4

④ 整備の貢献要素が多い

道後 11/山苞の道 4・8・C

⑤ 雰囲気の貢献要素が多い

萱町商店街 2/道後 11/三津浜 1・4・20/成留屋 A/山苞の道 D・E

⑥ 印象の貢献要素が多い

三津浜 1・20/山苞の道 4・A・B・C・D

⑦ 開放感の貢献要素が多い

道後 11/山苞の道 4・8・C・E

貢献要素が多い地点が共有する特徴と理由を、下記にまとめた。

①は、実感としての営みに加えて、営みを誘発したり想像できる空間であることが貢献している。

②は、郊外の豊かな自然の圧倒的な存在感は街中では得難い貢献要素である。

③は、整備や演出による要素の連続性やその土地ならではの特徴が貢献している。

④は、整備によるメンテナンスの良さや配慮と秩序を感じさせて貢献している。

⑤は、雰囲気貢献するものは、新しくきれいな整備だけではなくエイジングも重要なことが明らかである。イベントや添景の効果の高さも伺われる。

⑥は、印象を打ち消し合うものが混在していない調和のとれた状態といえる。

⑦は、物理的に開放的な空間が気分も解放して好感を持たれて貢献している。

また、阻害要素が少ない(0 または 1)地点 [道後 11/ロープウェイ通り 4/三津浜 1/成留屋 1]は、整備された箇所である。3 項目以上の貢献要素が多い 7 地点[道後 11/成留屋 1/山苞の道 4・8・C・D・E]は魅力の高い地点といえよう。

さらに、7つのカテゴリーを集約すると、A)自然と営み B)整備と街なみ C)開放感と印象と雰囲気 の3軸となるが、今後事例を重ねて詳細な検討を行いたい。

4.考察と提案

4.1.情緒性・感性の言語化に関する問題点と改善点

4.1.1.キーワードの有効性

貢献要素のキーワードを分類することにより、沿道景観にとっての重要性が把握しやすくなる。写真を観察することから始まる印象の言語化は、可視的表層に留まらずに深層をも伺う可能性を持っている。

また、景色のディテールには歴史や地域文化が表出しており、くらしのあり方のどのあたりを好ましく思い、共感を得ているかなども推察される。さらに、眼前の当

たり前のくらしのながめは、自然・歴史・生活文化系の時間的かつ空間的な集積によるものであり、言語化して共有することにより、「なぜ、魅力的なのか」を分かりやすく伝えることにつながる。

4.1.2.汎用型カテゴリーの検討

カテゴリーに用いる用語の判断には量的な要素と質的な要素が混在し、カテゴリーの用語どうしのバランスも重要なために、精査が必要である。今後は、多様な街路に対応可能な汎用型のカテゴリーを検討する必要がある。

なお、比較のために、貢献要素と阻害要素のキーワードの分類を同じ用語としたが、そのことによる弊害があるのか、また、あらかじめ分類にふさわしい包括する言葉を準備した場合なども今後検討する必要がある。

4.2. 沿道景観の貢献要素への提案

4.2.1.視覚化による連続性への理解促進

レーダーチャートにより視覚化することで、貢献要素のカテゴリー間の関係が把握しやすくなる。調査地点を増加することで街路全体を通しての傾向が明確になり、連続性もはかれる。これらによりシーケンス景観としての特徴や問題点も明らかになり、改善策を導くことも容易になるので、ワークショップなどの有効な手段となりうる。

4.2.2.阻害要素から貢献要素への転換

生活景にとってはその地の営みが軸になるが、わずかな原因で印象を損なう例も多い。例えば、果樹園の防虫ネットは広い範囲を覆うので、景観に配慮されたものに代われば阻害要素が貢献要素へ転換する。

昨今、防災用品なども景観に配慮した色彩の検討が盛んになるなかで、ブルーシートも新色が開発されているが、沿道景観にとっても景観配慮型の製品開発と使用の推進が望まれる。

また、折角の整備が必ずしも貢献要素に繋がっていない例もあり、ディテールへのわずかな配慮が有効となる可能性は高い。

4.3. ワークショップ形式への課題と提案

4.3.1.撮影について

交差点にさしかかって一旦歩行が滞留する際に周辺を見回したり、開放感の高い場所などで視野が広がる傾向も考慮した撮影と地点の選定が重要になる。具体的には、交差点では、進行方向の2カットに加えて東西南北を揃

場所	No.			営み	自然	街並み	整備	雰囲気	印象	開放感	小計	
ロープウェイ通り	4		貢献・阻害	2 ・ 0	0 ・ 0	0 ・ 0	0 ・ 0	1 ・ 0	1 ・ 0	0 ・ 1	4 ・ 1	
	票数	〇〇	小計	2	0	0	0	1	1	1	5	
萱町商店街	2		貢献・阻害	0 ・ 0	0 ・ 0	2 ・ 2	0 ・ 0	3 ・ 1	0 ・ 0	0 ・ 1	5 ・ 4	
	票数	〇〇	小計	0	0	4	0	4	0	1	9	
道後	11		貢献・阻害	0 ・ 0	0 ・ 0	0 ・ 0	2 ・ 0	2 ・ 0	0 ・ 0	2 ・ 0	6 ・ 0	
	票数	〇〇〇〇〇	小計	0	0	0	2	2	0	2	6	
三津浜	1		貢献・阻害	0 ・ 0	0 ・ 0	0 ・ 0	0 ・ 0	2 ・ 1	2 ・ 0	0 ・ 0	4 ・ 1	
	票数	〇〇〇〇	小計	0	0	0	0	3	2	0	5	
	4		貢献・阻害	0 ・ 1	0 ・ 0	1 ・ 0	0 ・ 0	2 ・ 0	1 ・ 0	1 ・ 1	5 ・ 2	
	票数	〇〇〇	小計	1	0	1	0	2	1	2	7	
三津浜	20		貢献・阻害	1 ・ 1	0 ・ 0	0 ・ 0	0 ・ 0	2 ・ 0	2 ・ 0	1 ・ 1	6 ・ 2	
	票数	〇〇	小計	2	0	0	0	2	2	2	8	
成留屋	1		貢献・阻害	2 ・ 0	2 ・ 1	2 ・ 0	0 ・ 0	1 ・ 0	0 ・ 0	1 ・ 0	8 ・ 1	
	票数	〇〇〇〇〇	小計	2	3	2	0	1	0	1	9	
	A		貢献・阻害	1 ・ 1	0 ・ 0	2 ・ 0	0 ・ 0	2 ・ 0	0 ・ 0	0 ・ 1	5 ・ 2	
票数	〇〇	小計	2	0	2	0	2	0	1	7		

図3 キーワードの 카테고리 と分布(松山市内と周辺地区)

場所	No.			営み	自然	街並み	整備	雰囲気	印象	開放感	小計	
山苞の道	4		貢献・阻害	1 ・ 0	1 ・ 0	2 ・ 1	3 ・ 0	0 ・ 1	2 ・ 2	2 ・ 0	1 1 ・ 4	
	票数	〇〇	小計	1	1	3	3	1	4	2	15	
	8		貢献・阻害	0 ・ 0	4 ・ 0	0 ・ 2	4 ・ 1	0 ・ 0	1 ・ 0	2 ・ 1	1 1 ・ 4	
	票数	〇〇	小計	0	4	2	5	0	1	3	15	
	A		貢献・阻害	0 ・ 0	4 ・ 0	1 ・ 0	1 ・ 0	0 ・ 2	2 ・ 1	1 ・ 0	9 ・ 3	
	票数	〇〇〇	小計	0	4	1	1	2	3	1	12	
	B		貢献・阻害	2 ・ 1	1 ・ 0	0 ・ 2	0 ・ 0	0 ・ 1	2 ・ 1	1 ・ 0	6 ・ 5	
	票数	〇〇	小計	3	1	2	0	1	3	1	11	
	C		貢献・阻害	1 ・ 0	3 ・ 0	1 ・ 2	2 ・ 0	0 ・ 1	2 ・ 1	2 ・ 0	1 1 ・ 4	
	票数	〇〇〇〇	小計	1	3	3	2	1	3	2	15	
D		貢献・阻害	3 ・ 0	2 ・ 0	0 ・ 0	1 ・ 2	4 ・ 0	3 ・ 1	0 ・ 1	1 3 ・ 4		
票数	〇〇	小計	3	2	0	3	4	4	1	17		
E		貢献・阻害	3 ・ 0	2 ・ 0	1 ・ 1	0 ・ 1	4 ・ 1	1 ・ 1	2 ・ 0	1 3 ・ 4		
票数	〇〇〇	小計	3	2	2	1	5	2	2	17		

図4 キーワードの 카테고리 と分布(山苞の道)

えることも有効である。

4.3.2.キーワードの選出について

歩いた実感が伴わない状況での判断は、認識に差が出る可能性もあるので、ビデオと静止画の複数媒体で写真を提示するなど、その差を最小にする方策の検討が必要である。また、木陰でほっとする・緑が目優しい・澄んだ空気に深呼吸する・樹木が良く手入れされている・鳥の音が聞こえた・穏やかな時間が流れている・車がスピードを上げて通り抜ける、などは実際に歩くことによりキーワード化されるものである。

今回は、抽出されたキーワード数をそのままグラフ化することを試みたが、詳細な検討のためには、それぞれのキーワードに関して5段階評価を取り入れた設問用紙の集計によりポイント化をはかる必要もある。

4.3.3.グループによる体験とディスカッションについて

グループによるディスカッションの際に、今回の5名前後は、カードを前に活発な意見交換ができる規模として望ましい。今回の体験グループは若年層のために瑞々しい感受性を持つ一方で、生活体験や認識の違いにより受け取り方に幅があるため、多様な世代を交えて検討する必要がある。

また、今回は精度を高めるために、丁寧なディスカッションを繰り返して時間を要したが、時間の短縮も検討課題である。

謝辞

本研究を進めるにあたり、ディスカッションや資料の作成に愛媛大学教育学部芸術文化課程造形芸術コース 3 回生上岡千恵、大江しおん、金田瑠衣、松井紫帆、渡辺順子諸君の協力を得ました。ここに記して感謝します。

注

- 1.パブリックデザインと沿道景観要素の関係に関する研究／愛媛大学教育学部紀要 59 巻／ p275 ～ 283 ／ 2012
- 2.生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり p24-26
／社団法人建築学会編／学芸出版社／ 2009
- 3.都市・建築の感性デザイン工学 p67 ／日本建築学会編／朝倉書店／ 2008
- 4.来て見てん山苞の道／山苞の道・景観継承の会 山苞

の会 NPO 法人みのう地域循環デザインセンター／
2008

「平成 19 年度全国都市再生モデル調査事業・地域資源を活かしたまちづくり」事業により作成

- 5.公共沿道空間の構成と歩行行動の関連性-ストリート
アメニティ形成方法に関する研究(2)／千代田憲子・
森田昌嗣／デザイン学研究第 51 巻 2 号／ p40 ／
2004

参考文献・資料

- 1.生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり／社団法人建築学会編／学芸出版社／ 2009
- 2.都市をつくる風景 「場所」と「身体」をつなぐもの
中村良夫／藤原書店／ 2010
- 3.都市・建築の感性デザイン工学／日本建築学会編／朝倉書店／ 2008
- 4.公共沿道空間の構成と歩行行動の関連性-ストリート
アメニティ形成方法に関する研究(2)／千代田憲子・
森田昌嗣／デザイン学研究第 51 巻 2 号／ p39-48 ／
2004
- 5.季刊ランドスケープデザイン 84 ／ p54-56 ／マルモ
出版／ 2012